

科目名称：	保育実習Ⅱ	
担当者名：	山田 紀子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	2
授業の目的・テーマ		
1. 学びつつある保育の理論と実践との統合をねらいとし、子どもの主体性を促す保育援助に必要な実践的知識・技術の習得を図る。 2. 保育全般に関する実践的側面についての理解を得、目指す保育者像を探る。 3. 保育士資格の取得を図ることを前提に、保育者としての使命感を醸成する。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)				100	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》12年4ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》19年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画、及び事前事後学修の内容・学習時間（分）
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となつて行なわれる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化 <p><実習日程> 「保育実習Ⅱ（保育所）」10日間・・・2年次8月または9月</p> <p><準備学習> 事前事後指導として「保育実習指導C」授業内で行う。</p>
<p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 各実習先の評価、実習生自身の自己評価を含む養成校による評価を合わせて行う。（100%） （実習先からの総合評価が不可の場合は、幼児教育学科専任教員一同の協議で決定する）</p>
<p>課題に対するフィードバック</p> <p>実習記録及び指導案を評価・確認し、返却する。</p>
<p>教科書・参考書</p> <p>「これで安心！保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房 「実習の手引き」 金城大学短期大学部</p>